

性能測定報告書

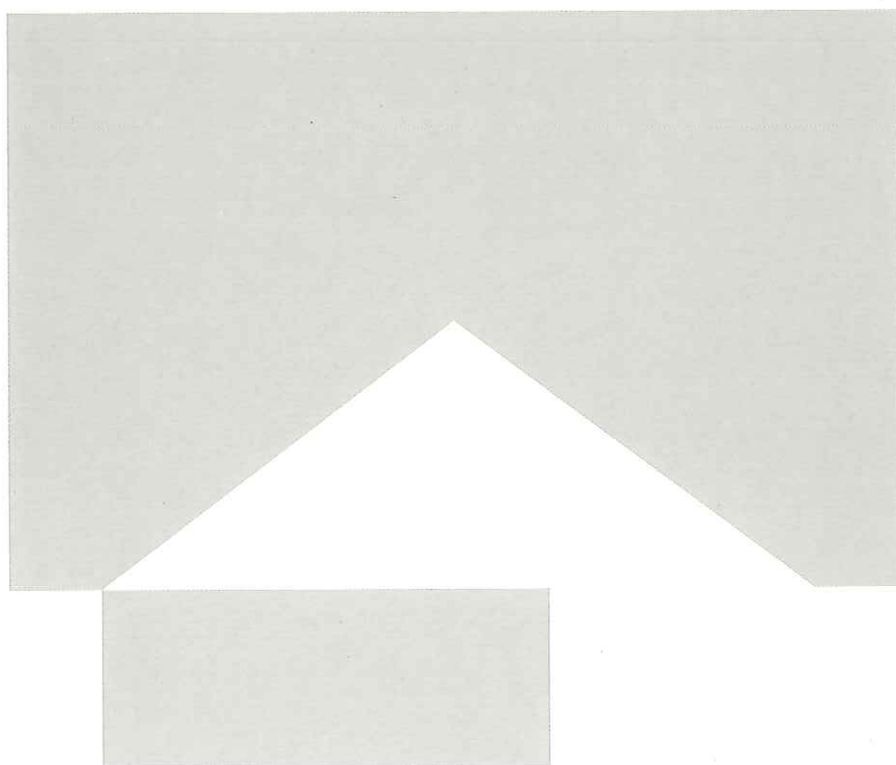
一戸建ての住宅

2015年3月13日

真庭市役所 建設部 都市住宅課

住宅の名称 真庭市営CLT春日住宅

上記住宅の性能について、「住宅の気密性能試験方法」に基づいた測定を行いましたので、その結果を報告致します。
この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。



HOUSE PLUS



ハウスプラス中国住宅保証株式会社

広島市中区国泰寺町1丁目3-32



このたびは住宅の気密性能試験にお申し込みいただきまして誠にありがとうございます。
試験結果は『住宅の気密性能試験結果』にてご報告させていただきます。

本試験は経済産業省・国土交通省告示第3号「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準」に掲げる相当隙間面積に関する基準より、財団法人建築環境・省エネルギー機構の定める気密測定技能者により同機構の発行する「住宅の気密性能試験方法」に基づいて実施しております。

本試験結果に記載の数値等に関して事実と相違ない旨ご報告いたします。

ハウスプラス中国住宅保証株式会社

住宅の気密と隙間

はじめに、住宅の気密性能は、平成4年2月に改正告示された「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する建築主の判断の基準」の中に「相当隙間面積 $5.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下」の住宅を指すものとして初めて規定され、さらに、平成11年3月の第2回目の改正告示で地域別に相当隙間面積 $2.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下の地域と $5.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下の地域に区分され全国的な仕様とされました。

平成4年2月改正の際、住宅の気密性が相当隙間面積で $5.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下のものを気密住宅ということになりました。（一般的には、相当隙間面積で $2.0\text{cm}^2/\text{m}^2$ 以下のものを高気密住宅と呼んでいます）

なお、気密化することにより注意しなければならないことは、十分な断熱と適温を保つ暖房、それに適切な換気を行うことが気密化の前提条件であることです。断熱の不足、部分暖房で全体の適温を保てないような住宅の気密化は、温度むらや室温の低い部屋では結露が発生する危険性が高く、また、換気不足による室内環境の悪化などの問題を引き起こしますので、十分な注意が必要です。

住宅の気密性能試験結果 (1)

申 込 者	会社名又は氏名	真庭市役所 建設部 都市住宅課
	住所	岡山県真庭市久世2977番地2

測定対象建物の概要		
建物の名称	真庭市営CLT春日住宅(1階)	
所在地	岡山県真庭市月田1997-2、1996一部	
竣工年月日	2015年 3月 10日	
構造及び工法	CLT壁式工法一部在来木造	
建物の規模	地階床面積	0.00 m ²
	1階床面積	88.00 m ²
	2階床面積	88.00 m ²
	3階床面積	105.06 m ²
	延べ面積	281.06 m ² … (A)
開口部の仕様	窓……………アルミ(引違い、上げ下げ、滑り出し) 玄関扉……片開き	
主な部位の気密層の使用	内装材、その他気密補助材	
建物概要図	別紙添付図面通り。	
通気量を測定した位置	添付平面図(⇒)に示す。	

測定時の建物条件				
	部位	方法	確認	特記事項
1	建物外皮にあるドア・窓	ロック(施錠)だけ	○	
2	天井・床下改め口	普通に閉めた状態	—	テープで目張り
3	郵便受け	普通に閉めた状態	○	
4	車庫に通じるドア	普通に閉めた状態	なし	
5	基礎と床の両方を断熱している地下へ通じるドア	普通に閉めた状態	なし	
6	換気レジスター	シャッター閉又は目張り	○	目張り
7	台所レンジファン	シャッター閉又は目張り	○	
8	換気扇・天井扇	シャッター閉又は目張り	○	目張り
9	FF式以外の煙突の穴	ダンパー閉又は目張り	なし	
10	屋外に通じる排水管	封水または管口を目張り	○	封水
11	集中換気システムの給排気ダクトの屋外側出入口	テープ処理又は目張り	なし	
12	建物外皮の外側にある開口部	普通に開けた状態	なし	
測定対象外にした部分(空間)の名称		1階MB、下がり天井部分(1.57m ²)、2階、3階		
同上で延べ床面積(A)に含まれる床面積		195.2 m ² … (B)		
吹抜け・床下・小屋裏など測定対象の相当床面積		m ² … (C) (床下あり)		
測定対象とした建物の実質延べ床面積(S)		S=(A)-(B)+(C)= 85.86 m ²		

注) 確認欄には、各状態を確認後、○印を付すこと。

住宅の気密性能試験結果 (2)

真庭市営CLT春日住宅 (1階)

測定者・測定方法・測定装置			
事業所	ハウスプラス中国住宅保証株式会社	事業所登録番号	1379
		技能者	五百川 大樹
		登録番号	07071-17
所在地	広島県広島市中区国泰寺町1丁目3番32号国泰寺ビル3階		
	電話 082-577-7712		
測定方法	JISA2201 (送風機による住宅等の気密性能試験方法) による。 流量及び圧力の測定は、あらかじめ校正した測定装置を使用して行った。		
測定装置	気密測定器KNS-4000II型/コーナー札幌株式会社		

試験日時	2015年3月13日 15時30分 ~ 16時00分		
測定時の環境	天候	晴れ	
	室内温度	10.4℃	
	外気温度	11.0℃	

測定点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
圧力差: ΔP (Pa)	10.6	21.7	29.1	40.1	49.0					
通気量: Q (m ³ /h)	339	488	669	825	915					

隙間特性値: n (1 ≤ n ≤ 2)	n = 1.47
通気率 (ΔP=1Pa時の通気量): a	a = 65.1 m ³ /h · Pa ^{1/2}
ΔP=9.8Paにおける通気量: Q _{9.8}	Q _{9.8} = 308.7 m ³ /h
係数: b	b = 0.627 c ^{1/2} = 0.700
総相当隙間面積: αA (cm ²)	αA = Q _{9.8} × b = 216 cm ²
相当隙間面積: C (cm ² /m ²)	C = αA/S = 216 ÷ 85.86 = 2.5 cm ² /m ²

測定結果添付欄 (データNo. 0001)

2015年03月13日 データNo. 0001
モード: セミオート測定 (減圧法)

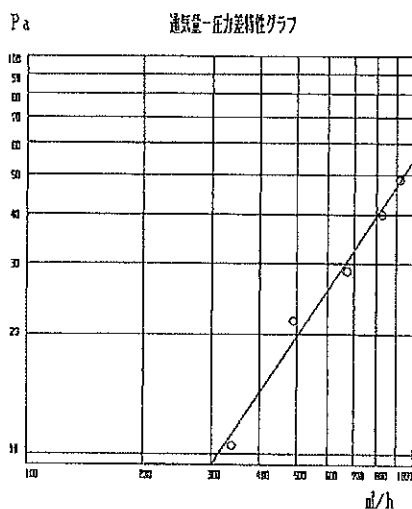
総相当隙間面積: αA = 216 cm²
隙間特性値: n = 1.47
通気率 (ΔP=1Pa時の通気量): a = 65.1
ΔP=9.8Paにおける通気量: Q_{9.8} = 308.7 m³/h

室内温度: 10.4℃ 係数 (b): 0.700
外気温度: 11.0℃

測定パラメータ

圧力差 10.6Pa	通気量 339m ³ /h
圧力差 21.7Pa	通気量 488m ³ /h
圧力差 29.1Pa	通気量 669m ³ /h
圧力差 40.1Pa	通気量 825m ³ /h
圧力差 49.0Pa	通気量 915m ³ /h

50.0Pa時の測定流量: 930m³/h



* (参考) データがある場合は記入する。

住宅の気密性能試験結果 (3)

真庭市営CLT春日住宅 (1階)



写真：01_測定装置設置状況

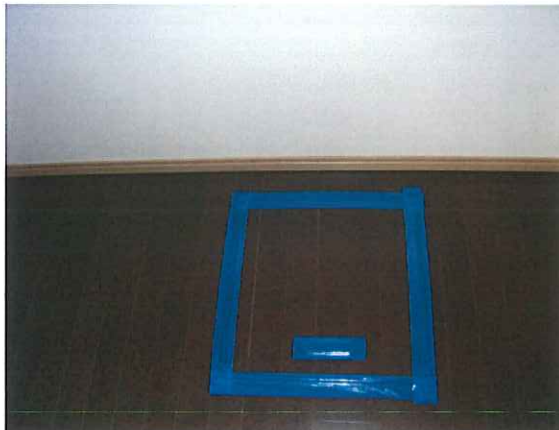
1階 リビングに設置



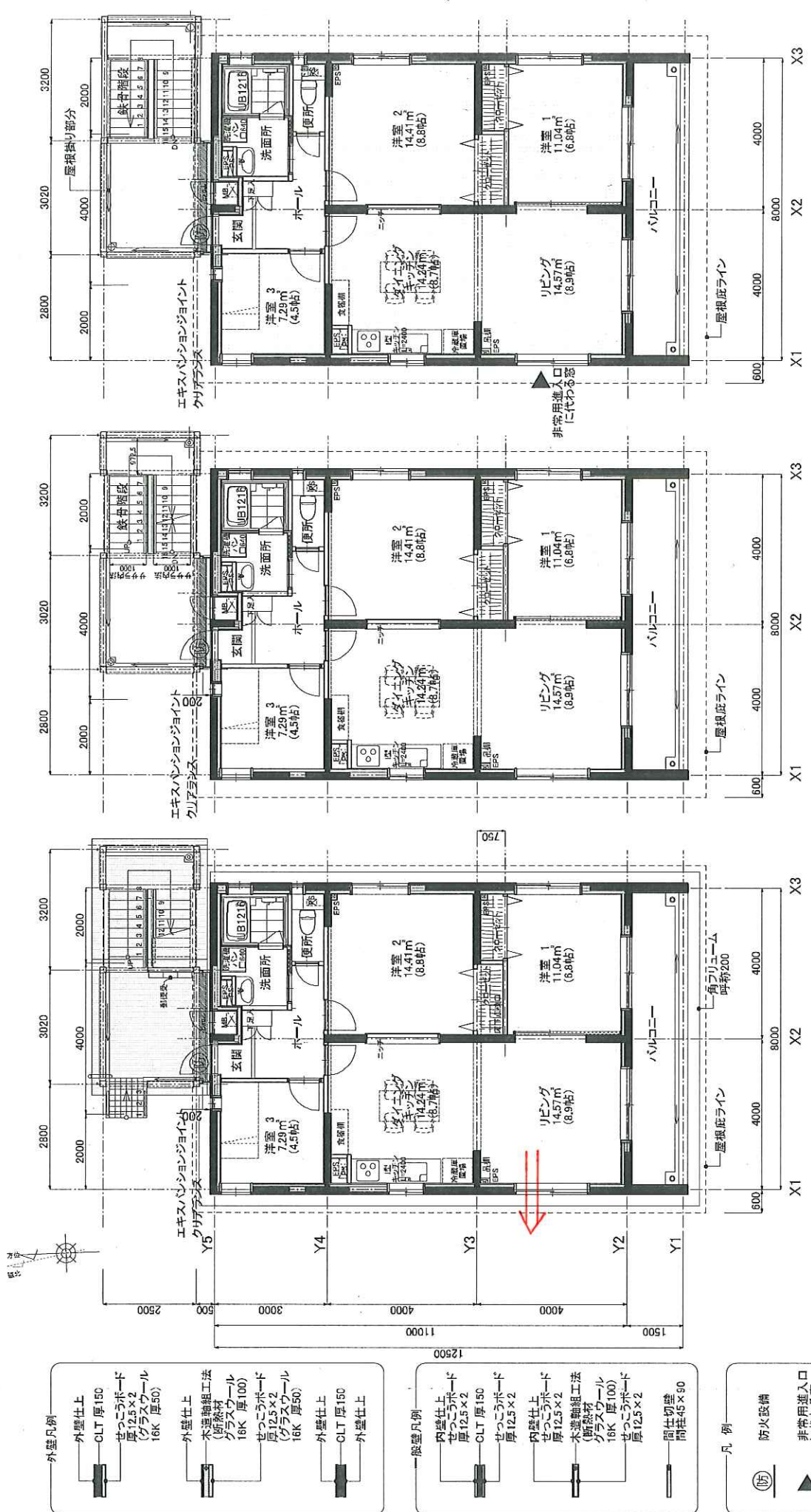
写真：02_リビング 換気レジスター目張り状況



写真：03_便所 換気扇目張り状況



写真：04_床下点検口目張り状況



3階平面図 1/100
3LDKプラン

2階平面図 1/100
3LDKプラン

1階平面図 1/100
3LDKプラン

外壁凡例

- 外壁仕上
- CLT 厚180
- せっこうボード 厚12.5×2
- グラスウール 16K 厚50
- 外壁仕上
- 木造軸組工法 (断熱材 グラスウール 16K 厚100)
- せっこうボード 厚12.5×2
- グラスウール (クラスウール 16K 厚50)
- 外壁仕上
- CLT 厚180
- 外壁仕上

一般壁凡例

- 内壁仕上
- せっこうボード 厚12.5×2
- CLT 厚180
- せっこうボード 厚12.5×2
- 内壁仕上
- せっこうボード 厚12.5×2
- 木造軸組工法 (断熱材 グラスウール 16K 厚100)
- せっこうボード 厚12.5×2
- 間仕切壁 間柱45×90

凡例

- 防火設備
- 非常用進入口に代わる窓